



ふるさとへの思いと絆をつなぐ広報誌

平成25年4月20日発行(毎月1回20日発行)

# ふるさとたより

久之浜・大久、四倉、平、小名浜、勿来

2013年

April

NO.23

4

Pick up

## 桜特集

ふるさとに春を告げる、3年目の桜  
新入生が期待に胸をふくらませて…。各地で入園・入学式。



今月の子どもたち

國玉直輝くん(左)

大庭美麗ちゃん(中)

後藤望亜ちゃん(右)



久之浜・大久



四 倉



平



小名浜



勿 来

解体近づく久之浜公民館  
たしかなる風 アリオスで披露

スターキッズエアロビック  
四倉各地で入園・入学式

豊間の獅子舞 滋賀県で勇姿  
豊間小・中学校入学式

真福寺御詠歌の会  
復興へ向けた動き

歴史ある「勿来の関」の桜  
勿来地区の入園・入学式



## さようなら、ありがとう 解体近づく久之浜公民館



約2年ぶり自分のズックを見つけた新妻しづくちゃんとお父さん

**約2年ぶりに見つかったしづくちゃんのズック**

1月8日、東京の高校生を中心としたボランティアグループ「チームネイバー」が公民館を訪れ、もちつき大会を開催。もちつきの合間にメンバーは、久之浜一小児童クラブの子どもたちと遊びました。その中のひとり、久之浜一小（当時のひとり）久之浜の新妻しづくちゃんの手に宝物が戻りました。「遊んでなんかあるなあって拾つて見たら、私のズックだったの」と

や踊り、手芸などのサークル活動。そして成人式や合同供養祭など地区の催しが行われてきた久之浜公民館。今年度には解体が予定され、多くの方が慣れ親しんできた建物とお別れする日が近づいて来ています。ここにはたくさんの物語が生まれました。



製作期間8ヶ月の千羽鶴をはじめ多くの作品が並びました

剣道や卓球などの練習。歌や踊り、手芸などのサークル活動。そして成人式や合同供養祭など地区の催しが行われてきた久之浜公民館。今年度には解体が予定され、多くの方が慣れ親しんできた建物とお別れする日が近づいて来ています。ここにはたくさんの物語が生まれました。

**中之作のみならず、今や市内各所で見かけるつるし雛。4年前、久之浜公民館でもつるし雛作りの市民講座が開かれました。当時受講生だった吉原勝枝さん、猪狩ミヨシさん、高木京子さんによる展示会が2月23日開かれました。**

「避難先で気分を紛らわせたい時、やることがない時、針と糸、布を持ち込んでずっと作ってましたね」と吉原さん。ひときわ立派な千羽鶴のつるし雛は完成までに8ヵ月もかかりました。昨年の3月11日、久之浜第一幼稚園からの帰宅直後、そこを襲った津波。「金曜日だったから、上履きを洗ってもらおうと持ち帰ったんだが今日見つかるとは」とお父さんが今日見つかるとは」とお父さんの篤さんも驚きの表情。

「ズックもしよくなじやない? 大切にしなつきやね」「うん、そうだね。大事にする」。メンバーのお姉さんお兄さんと一緒に遊んでもらおうと持ち帰ったんだが、避難しようとして車に娘を乗せる時に落としたのかな。それが今日見つかるとは」とお父さん

## 久之浜のつるし雛 公民館から始まった

## ひさのはま感謝祭 さよなら久之浜公民館

はじめまして、よろしく  
保育所・幼稚園・小中校の春

昭和41年に建てられた、久之浜公民館。3月24日、感謝の気持ちをこめた最後のイベントが開かれました。この日の来館者は出演者も含め約250人。お昼には、久之浜町婦人会のみなさんが朝から準備したご飯と豚汁を食べ、公民館での最後の時間を共にしました。

久之浜・大久支所と一体化させ、新しく建てられる防災拠点施設は今年度内に設計と造成工事を終え、26年度から建築工事を開始、27年度の供用を目指します。「新しいビルは盛大なものにしたいね。新しい久之浜の顔になるビルがどんなものになるか楽しみだね」と実行委員長であり北町区長の鈴木豊さんが話してくれました。

### ●4月5日 久之浜保育所入所式

16名が入所。新たに4歳児1名が仲間入りしました。

### ●4月9日 久之浜第一幼稚園入園式

平第一幼稚園で合同保育を行った久之浜第一幼稚園では18名（男子9名、女子9名）が元気に入園しました。

### ●4月8日 久之浜第一小学校、久之浜第二小学校、久之浜中学校入学式

久一小25名（男子15名、女子10名）、久二小3名の男子、中学39名（男子16名、女子23名）が入学し新たに学校生活をスタートさせました。



公民館への感謝の気持ちを込めて多くの人がステージに立ちました



久之浜保育所の入所式。入所児と先生全員でハイポーズ

今年は例年より早く咲き始めた桜。咲き誇る桜の下で、そして、桜吹雪が舞う中で、浜っ子たちが新たな一步を歩みだしました。

# 復興へ向けた動き

## 金ヶ沢、末続地区 防災集団移転の現

防災集団移転の起工式

3月27日 金ヶ沢・木綿地区の防災集団移転事業の合同安全祈願祭および起工式が行われました。

安全祈願祭では久之浜諷訪神社の高木美郎宮司が神事を執り行い、渡辺敬夫市長らが出席。続いて起工式が行われ、渡辺市長は「今回の事業は、復興事業元年として大きな一步となる。今後は他地区においても整備を進め、被災者が1日も早く生活再建ができるよう努めていきたい」と復興への決意を述べました。

参加者は除染現場を見学した後、除染廃棄物の搬入されている北部衛生センターを訪れました。「テレビで見る映像では、庭先などに袋が置かれているだけで不安だつた。実際に仮置き場を見て、きちんと管理されている様子で安心した」と参加者は感想を述べていました。ロシャールさんも「特によく整備されている」と思つたのが仮置き場。運び込まれた袋にナンバリングがされているところも含め管理はよくできている」と専門家の立場からも太鼓判。

「ロシャールさんは、最初に末続を訪れた時の住民の緊迫した感じが、今は穏やかな雰囲気に変わってきていると言つてくれた。私もそれは実感しています。時間の経過だけではなく、地区の皆が関心を持つてわつてくれたおかげだと思いました。」と遠藤代表は話してくれました。

◆整備された仮置き場を見学するロシヤールさんたち



総勢30名ほどが仮置き場の見学に参加しました。

久之浜・大久地区で  
除染作業続く

浜・大久地区全戸を対象にした除染作業。4月1日現在、未続地区に統いて、除染廃棄物の仮置き場の準備が進む小田地区で除染が始まりました。

# 除染現場と 仮置き場見学会

▶通訳をはさんで口  
シャールさん(左)と  
遠藤眞也さん(右)



◆整備された仮置き場を見学するロシヤールさんたち

## 久之浜地区放射線量測定記録 (各区代表ポイント)

- 測定日：平成25年3月27日
  - 天候：雨
  - 測定者：久之浜・大久地区復興対策協議会  
安全専門部会
  - 測定器：日立アロカメディカル型 TCS-172(シンチレーションサーベイメーター)

| 測定ポイント           | 地上<br>1cm | 地上<br>100cm |
|------------------|-----------|-------------|
| 田之網(田之網集会所)      | 0.12      | 0.13        |
| 南町(旧道沿い中央部)      | 0.11      | 0.11        |
| 中町(旧道高木屋旅館付近)    | 0.11      | 0.10        |
| 北町(久之浜駅前)        | 0.13      | 0.14        |
| 東町(旧久之浜漁協前)      | 0.11      | 0.09        |
| 西町1区(西町公園付近)     | 0.16      | 0.14        |
| 西町2区(久之浜第一小正門付近) | 0.23      | 0.24        |
| 金ヶ沢(鹿野付近)        | 0.25      | 0.24        |
| 未続(未続駅前)         | 0.26      | 0.23        |
| 大久(大久公民館付近)      | 0.24      | 0.19        |
| 筒木原(久之浜第二小西門付近)  | 0.13      | 0.13        |
| 小久(町田橋付近)        | 0.19      | 0.20        |
| 小山田(小山田集会所付近)    | 0.20      | 0.18        |

※(株)東北イノベーターのHP  
<http://www.thkinnovator.co.jp/> で  
より詳しい放射線情報をお読みいただけます

新しい久文近の歌を作ろう 歌おう 奏でよう！ Part4

# アリオスで集大成のコンサート開催

おでかけアリオス「タイムカプセル2012・久之浜編」  
出来た久之浜の歌「たしかなる風」の発表会を行った「ふるさと久之浜」合唱団。3月17日、ワーケーションツップ最後を飾るコンサートが「いわき芸術文化交流館アリオス」で開かれました。  
会場となつた小劇場は当日券も売り切れるほど満席に。小川、南台での成果が発表され、最後になると久之浜合唱団が登場。新しい久之浜の歌「たしかなる風」と名物あるこうのどぶ汁の話から生まれた「トブシルのうた」を披露し、大きな拍手が送られました。  
閉演後、慰労会が行われ、その席上で歌唱指導を行つた坂本登美子さん



アリオスステージで熱唱するみなさん。開演前には作曲者谷川賢作さんのピアノ伴奏でレコーディングも行われました（撮影：鈴木穂穂）

おでかけアリオス「タイムカプセル2012・久之浜編」。昨年11月24日、新しく出来た久之浜の歌「たしかなる風」の発表会を行つた「ふるさと久之浜」合唱団。3月17日、ワーランドショップ最後を飾るコンサートが「いわき芸術文化交流館アリオス」で開かれました。

は「思った以上の出来に感激です。『たしかなる風』が歌い継がれるよう願っています」と話しました。そして、松本光司久之浜一小校長は「『たしかなる風』が未来へつなぐバトンとなる」と一言。ワーランドショップと共にした5人のアーティストとの出会いから9カ月。見事にバトンはつながりました。

## 大会に向けて練習に取り組むメンバーたち

毎週月曜日の夕方、大浦公民館の会議室から、軽快な音楽が流れてきます。ここではキッズエアロビック「スター・キッズ」のメンバーたちが、真剣な表情でレッスンに励んでいます。

平成19年4月に活動を始めた以来、公民館祭りなどのイベントに参加するほか、各種大会や技能検定にもチャレンジしています。

小学生のメンバーに加えて、

**体力向上、コミュニケーション能力アップ、そして達成感**

今年3月に大浦小学校を卒業したふたりの新中学一年生も、4月28日に開催される「スズキジャパンカップ2013第30回全日本エアロビック選手権大会」の福島県大会に向けて、レッスンに通っています。

講師の飯島久江先生は「体力アップはもちろんコミュニケーション能力を高めたり、仲間と一緒に踊る楽しさを味わえたりできるスポーツです。ぜひ見学にいらしてください」と話しています。

県内では、原発事故の影響で、外遊びを控える傾向があり、子どもたちがストレスを抱えていたり、体力が低下していると指摘する声もありますが、スター・キッズのメンバーたちは、そんな心配を吹き飛ばすように、輝く笑顔で元気いっぱいに躍動しています。



練習は毎週月曜日の16:00から17:30までで、対象は年中から小学6年生まで。現在は大浦小学校の児童だけですが、もちろん他地区の児童や男の子の参加も大歓迎のことです

みんなで楽しく元気に格好よく！

# 笑顔あふれる キッズエアロビック

kids Aerobic

# スター・キッズ



中学校に進んだメンバーはスター・キッズも卒業ですが、4月末の県大会まで練習に参加中。取材に伺った3月25日は、レッスンの後にお別れ会を開いていました



3月24日に行われた久之浜公民館の最後のイベント「ひさのはま感謝祭」でも息の合った踊りを披露

(社)日本エアロビック連盟認定キッズ・ジュニアエアロビック指導員の飯島久江先生は大久町在住で、久之浜のよさこいグループ「海神乱舞」の踊り手でもあります。大浦のほかに小名浜、中央台の各公民館でも指導に当たっていって、3つの公民館のメンバーたちが合同発表会をすることも

# 復興へ向けた動き

四倉

防潮堤の形や配置を  
ワークショップで議論

3月3日、四倉ふれあい市民会議は四倉町商工会館で「四倉海岸地域の防潮堤建設にあたっての検討ワークショップ」を開催しました。

1月に行つた一回目のワークショップで参加者から出た意見を踏まえて、岡田智秀・日本大学理工学部准教授と研究室の学生が、漁港部に建設する防潮堤の線形や配置について、既存の敷地割りに従う形のA案、境川沿いに河口に向けて突き出すB案、地形に沿った曲線のC案を提案しました。

五班に分かれた参加者は、防潮堤の線形を示した地図と模型で具体的なイメージをつかみながら話し合い、防潮堤の線形については「C案をベースに、隣接する防災緑地と一緒にあるようにするべきではないか」、「境川より南側の堤防をさらに前出して、それに連動する漁港部の堤防も前に出

すD案を提案したい」などの意見が出ました。今後、市民会議では二回のワークショップで出された意見を集約し、シンポジウムを開いて発表する予定です。



防潮堤の模型を使って形や配置、利活用法について活発に議論しました

## 四倉地区 入園・入学式風景

いずれも4月8日



入園式は四倉小学校の体育馆で行われ、12名の子どもたちが晴れの日を迎えた。

### 四倉第一幼稚園



### 桜花なわとびクラブで大会

同クラブの第30回なわとび大会が3月3日、大浦小学校体育馆で開かれました。

幼稚園児から一般まで52名の出場者は男女、学年、年齢別に競技を行い、ジャンピングパネルの反動を生かして高難度の技を次々に繰り出し、順位を競い合いました。

年齢別の上位10名で競う桜花杯選手権の男子では、同クラブ会長で大浦小学校長の斎藤仁選手が優勝しました。



鈴木蒼大くんと村越あかりさんが、53名の新入生を代表して教科書と交通安全帽を受け取りました。

### 四倉小学校



### 園児の帰りを待ち続けて…

新学期を迎えるも人気のない園庭で、ひっそりと咲く桜。

四倉第一幼稚園は敷地内の放射線量が若干高いため、今年度も四倉小学校を間借りして保育中。震災や原発事故があっても季節は巡ります。園舎に笑顔と歓声が戻る日が春ならば、きっと桜は大輪の花を咲かせて園児たちを迎えてくれることでしょう。



入生107名を代表して石川みずきさんが誓いの言葉を述べました。

### 四倉中学校

### 四倉諏訪神社の例大祭開催

毎年恒例の例大祭は5月4日に行われます。昨年は諏訪神社、出羽神社、安波大杉神社の三基の神輿すべてがトラックによる渡御でしたが、今年は諏訪神社の神輿は、担ぎ手による渡御になります。

四倉海岸でのお潮汲み神事と海中渡御は震災の影響を考えて、昨年に引き続き中止ですが、今年は塩木地区の八坂神社まで神輿が渡御します。また、館下稻荷の神輿、紅鳳会の女神輿、元氣いっぱいの子ども神輿なども町内を練り歩きます。



## 豊間地区住民の思い 8つの提言を市長へ

ふるさと豊間復興協議会は、2月22日、復興に向けたまちづくりについての提言書を市に提出しました。

同協議会は昨年9月から今

年1月まで計12回のワークショップを開催。その中で、住民

から出された意見を提言にまとめました。提言の内容は、災害公営住宅周辺の共用スペース

づくりや、豊間に戻ってきて良かつたと思えるコミュニティ

づくりなどの8項目。

鈴木徳夫会長が「この提言

を住民の総意として受け止めていただきたい」と渡辺市長に

提言書を手渡しました。渡辺

市長は「おおむね3年間での復旧、5年間での復興を目指

に、地域コミュニティに寄与する形で取り組んでいきたい」と応えました。



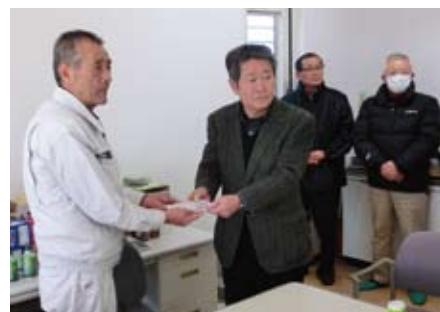
提言を手渡す鈴木区長（左）

## 学校教育復興推進 協議会発足

今後の学校運営を地域全体で考えていこうと「豊間地区学校教育復興推進協議会」が3月22日に発足しました。会長は遠藤欽也沼ノ内区長。副会長は豊間区長、薄磯区長、小中学校の各PTA会長が務めます。同28日には教育委員会との話し合いが行われ、被災した保育園や中学校の今後について意見を交わしました。



灯台下で行われた寄付金の贈呈式



寄付金を手渡す鈴木一明会長（左から2人目）

豊間小・中  
学校通信  
Vol. 12

## 箏曲部が世界のコバケンと共に演 笑顔をくれた 思い出の曲「華紋」

新学期を控えて、豊間中学校の箏曲部は新1年生との対面式にむけて練習を重ねていました。同部は3月28日、東京・上野の東京会館で、いわき市出身の指揮者・小林研一郎さんの所属する「コバケンとその仲間たちオーケストラ」と共演。同団体のドキュメンタリー映画「天心の譜」の中で実際に弾いた曲「華紋」を演奏しました。

部長の幸田直子さんは、「強く生きてほしいと震災後にオーケストラのみなさんから贈つていただいた10面の琴がなければ、練習も満足に出来ませんでした」と、感謝の気持ちを話していました。

30年以上の歴史がある豊中箏曲部は全員が女子生徒



## 小田原のNPO法人が 薄磯区に10万円寄付

## 地道に募金活動を続け 横浜から善意10万円

神奈川県小田原市で障害者向け福祉サービスを提供するNPO法人「おだわら虹の会」は3月27日、いわき市を訪れ、利用者やスタッフから寄せられた10万円を薄磯区に寄付しました。

研修旅行に参加した利用者とその家族ら約60名が見守る中、塩屋埼灯台下で贈呈式が行われました。同法人常務理事の高橋直美さんが「被災地の現状を見て、改めて今生きている幸せを実感した。復興に役立ててください」と話し、志賀隆一郎区長がお礼を述べました。

自治会主催の運動会などで地道に募金活動を続け10万円を集めました。視察研修の一環で役員20名が来市しました。鈴木徳夫区長らの案内で被災した沿岸部を見て回り、被災状況を確認。鈴木会長は「復興には長い期間かかると思う。これからもできることを協力していきたい」と話しました。

## 金倉稻荷神社で初午祭

平薄磯字南作の金倉稻荷神社（鳥居吉治宮司）で3月17日、恒例の初午祭が行われました。遠方の避難先からも多くの人が訪れ、近況を報告し合いながら今年1年の無事を祈りました。



市内外から多くの人が訪れた初午祭

江名の真福寺（永崎亮寛住職）では、住職夫人の雅子さんが御詠歌の会を主宰しています。会員は15名で、毎月11日付近の友引の日に練習しています。

亮寛さんが和歌山県の高野山にある大学の先生だった頃から、雅子さんは御詠歌と宗教舞踊を習っていました。

御詠歌の会は、工事のために同寺に来ていた人が雅子さんの御詠歌を聞き、教えて欲しいとお願いしたことがきっかけで、平成13年10月から始まりました。

「いわきに知り合いもなく、震災後は気持ちの整理がつかなかつたため、しばらく練習を中止していました。

震災後は気持ちは整理がついたんですが、いわきは漁業に従事していることに感謝しています。

恩返しに供養の御詠歌を

江名の町も分からぬことがあります。会員は15名で、毎月11日付近の友引の日に練習しています。

亮寛さんが和歌山県の高野山にある大学の先生だった頃から、雅子さんは御詠歌と宗教舞踊を習っていました。

御詠歌の会は、工事のために同寺に来ていた人が雅子さんの御詠歌を聞き、教えて欲しいとお願いしたことがきっかけで、平成13年10月から始まりました。

「あの震災が夢であつて欲しいと願い、何もできないことがくやしくて苦しくて仕方なかったです。ですが、全国の御詠歌を

宗教舞踊の稽古も再開！

御詠歌の会を主宰する傍ら、宗教舞踊も行っている雅子さん。

震災当日も、メンバーを集めて稽古に励んでいましたが、突然襲ってきた激しい揺れに立つこともままならず、柱にしがみついてその場をしのいだそうです。

その後は、御詠歌と同じように稽古を休んでいましたが、先日、およそ2年ぶりにメンバーが集まり、宗教舞踊のひとつである「夢遍路」を舞いました。



江名の町も分からぬことがあります。会員は15名で、毎月11日付近の友引の日に練習しています。

亮寛さんが和歌山県の高野山にある大学の先生だった頃から、雅子さんは御詠歌と宗教舞踊を習っていました。

御詠歌の会は、工事のために同寺に来ていた人が雅子さんの御詠歌を聞き、教えて欲しいとお願いしたことがきっかけで、平成13年10月から始まりました。

震災後は気持ちは整理がつかなかつたため、しばらく練習を中止していました。

同会は、昨年8月14日、江名漁港で行われた震災復興と新盆供養盆踊り大会に参加しました。海に向かつて手を合わせたのは、この時が初めてで、これを契機に現在、いわきの七浜を回って御詠歌を唱えています。



昨年の新盆供養盆踊り大会で、踊りを披露する永崎雅子さん。この盆踊りへの参加がきっかけで七浜回りを始めることに



薄磯海岸で、海に向かって御詠歌を唱えます。「今は悲しい別れだが、またいつか会える」という意味の「愛別離苦」の歌は必ず唱えるそうです



### 愛別離苦の気持ちを胸に

## いわき七浜をめぐり 鎮魂の御詠歌を唱える

### 真福寺 御詠歌の会



御詠歌に付いている手踊りをする会員たち。この日の薄磯海岸は工事中で降りられませんでしたが、普段は砂浜で行います

### 御詠歌

仏教の教えを五・七・五・七・七の和歌にして旋律に乗せて唱えるもの。平安時代より伝わる宗教的伝統芸能のひとつ。基本は喪服に袈裟をかけ、数珠を手にして行う。手踊りがついている御詠歌もある。

# 復興へ向けた動き

小名浜

## 第2回

### 津波避難のための懇談会

第2回津波避難のための地区懇談会が3月1日(折戸・中之作地区)、6日(江名地区)、7日(永崎地区)、8日(下神白地区)に開かれ、各地区の区長や役員、消防団などが参加しました。

- ・江名トンネルの明るさ対策

#### 【中之作地区】

- ・防災行政無線の増設検討
- ・避難誘導サインの設置検討

#### 【江名地区】

- ・津波避難場所の追加検討
- ・防災行政無線の増設検討
- ・避難誘導サインの設置検討

#### 【全地区共通の主な意見】

- ・津波誘導サインの設置検討
- ・高齢者などへの避難の対応
- ・定期的な避難訓練の実施

まず、市の担当者が車両の危険性や津波避難の考え方、施設整備の基本的な事項を説明し、その後、地区ごとに前回の懇談会の意見等を反映した計画案について話し合いました。

各地区の防災減災対策に向けた施設整備計画の内容は次のとおり。

●津波避難場所の追加検討  
●避難誘導サインの設置  
●小中学校への避難路、避難階段整備検討

#### 【折戸地区】

- ・津波避難場所の追加検討
- ・避難誘導サインの設置
- ・小中学校への避難路、避難階段整備検討

#### 検討



三崎公園

小名浜の  
**桜**

鹿島千本桜



大剣公園

## 入学式



4月8日  
江名小学校

新入生12名と保護者のみなさん。入学式では校長先生から新入生に対し、「元気なあいさつをする、自分の事は自分でやる、みんなと仲良く」の3つのお願いがありました。



4月9日  
いわき海星高校

いわき海星高校の入学式は小名浜市民会館で行われ、136名の新入生を代表して情報通信科の鈴木権他さんが力強く宣誓しました。



4月8日  
江名中学校

真新しい制服に身を包んだ72名の新入生は、これから始まる学校生活に期待で胸をふくらませていました。



## 江名諏訪神社例大祭のお知らせ

- 日時／5月4日(土) 7:00～ 例大祭祭典  
9:00 神輿出発

- 出発場所／江名諏訪神社



文学歴史館前にある「勿来八景」の石碑を飾る桜  
(平成24年撮影／写真提供：勿来閑文学歴史館)

市内でも、桜の名所のひとつとなつてゐる「勿来の関」。平安時代後期の武将、源義家ほか多くの歌人が歌を残している

古くから親しまれ、  
今を生きる桜

ことでも有名で、ソメイヨシノやヤマザクラなど、合わせて約600本以上の桜があり、古くから地元に根付いてきた観光名所です。

### ふるさとの美しい景色を 守るために活動を続ける

勿来の関の桜を、46年もの間守り続けてきた「県立勿来自然公園を守る会」。31名の地域住民が活動している同会では、過去36回にわたって、てんぐす病の剪定作業を行つてきました。また、昨年は東日本大震災復興記念として30本のソメイヨシノと、三春町からいただいた滝桜の苗木1本を植樹。そのほか桜の管理全般はもちろん、公園の清掃活動などにも

### 今年度初のサロン活動 みんなでゆったり桜を満喫

勿来町窪田には、5区と7区の地域住民で編成される「コスマス会」という団体があります。同会は、地域住民から「みんなで集まる機会がない」との声を受け、昨年8月に発足。それ以降、勿来・田人地域包括支援センターの協力のもと、毎月第4木曜日に住民を中心としたサロンを開催してきました。

定期的に活動してきた同会ですが、今年2月に「回数を増やしてほしい」という要望があがり、4月から毎月2回の活動に変更。4月11日、コスマス会のリニューアルを記念して、お花見会が開かれました。ゆったりと桜を眺めながら、それぞれが持ち寄った料理を味わう参加者のみなさん。今年度初となる活動を楽しんでいました。



会場となった道山集会所の庭には桜の木があり、窓の外を眺めながら食事を楽しみました

## 震災から2年を迎えた ふるさとの“春”

# 歴史を刻み続ける 「勿来の関」の桜



震災当時の勿来の関の様子(写真提供：鈴木安喜)



震災から1年が経った、昨年4月の様子。1年前はガラリとしていた景色も、すっかり花見客で賑わっています(写真提供：鈴木安喜)

花見客も激減。「大震災を体験して花を愛でる余裕などない」という方もいたそうです。そんな中、「勿来の関をもう一度たくさんのお花見客で溢れさせよう」と、活動を続けてきた人たちがいます。

そして、昨年春、満開の桜のもとで賑わう大勢の人々を見て「大切に世話してきた甲斐があつた」と喜びひとしおでした。今年も見事に花を咲かせた勿来の関の桜。その影には、ふるさとの桜を愛する人たちの支えがあることを、忘れてはいけません。

しかし「いつかまた花見客でいっぱいになる」と信じ、会員とともに桜を守り続けました。そして、昨年春、満開の桜のもとで賑わう大勢の人々を見て「大切に世話してきた甲斐があつた」と喜びひとしおでした。今年も見事に花を咲かせた勿来の関の桜。その影には、ふるさとの桜を愛する人たちの支えがあることを、忘れてはいけません。

### 現在も勿来の関の桜を見守る

#### 鈴木安喜さんと奥様の正枝さん



美しい桜を守るために、6年前から毎日勿来の間に足を運び、公園の清掃管理にも努めてきました。その甲斐あってか、最近はごみのポイ捨てがなくなり、美しい景色を維持することができています。これからも、見に来てくださった方が和めるような環境を作っていくたいです。

# 入園・入学おめでとう!! 震災から2年…子どもたちが迎えた新しい“春”

## 植田保育園

4月1日、植田保育園で入園式が行われました。式では、28名の新入園児と在園している子どもたち111名がともに合唱。伊藤妙子園長からお祝いの言葉が贈られました。

佐糠町にある同園は、震災が当時津波が襲ってくる危険性があったため、園児たちは近くの小学校へ避難。幸い園舎自体に被害はなかったものの、震災後もしばらくはその時の記憶が残っている園児もいたそうです。しかし震災から2年が過ぎた現在の園内では、元気いつ

ぱいに遊ぶ子どもたちの姿がありました。「少しずつでしたがが、日常を取り戻すことができて良かった」と園長は話します。

震災で校舎や体育館に甚大な被害を受けた勿来工業高校。老朽化で震災前からも倒壊の恐れがあった校舎は使用が禁止されており、新校舎の建設が進められています。そのため現在1、2年生はプレハブの仮校舎を使って、3年生は専門科ごとに実習室を教室として使用し、学校生活を送っています。

また、通常使用していた第一体育館は、今年2月に解体作業が終了。現在はステージのない第二体育館を使用し、新しい体育館は平成26年2月に完成する予定です。



第二体育館内に設置された仮ステージを使用し、入学式が行われました

そんな中、4月9日に第二体育館で入学式が行われました。若菜靖彦校長から歓迎の言葉が贈られ、新入生240名はこれから始まる新生活を目前に、期待で胸をふくらませていました。



先生に教わりながら、お友達と元気いっぱいに歌を歌いました



懇談会が行われた植田公民館には、区長を含めた地域住民およそ20名が集まりました

## 勿來の四季折々

新コーナー「勿來の四季折々」。季節に合わせた勿來地区の美しい景色をみなさんにお届けします。



### ▶東田中央公園の桜

植田駅近辺に位置し、近所の子どもたちの遊び場としても親しまれている東田中央公園。渋川沿いに咲く桜は鮫川の河口付近まで続いており、春は桜をゆったりと散策できる散歩コースとしても利用されています。



### ◀常磐共同火力(株) 勿來発電所の河津桜

今年は例年より開花が早まり、3月下旬には濃い桃色の花を満開に咲かせた河津桜。多くの花見客で賑わう中には、この河津桜を目見ようと福島市から来市したという方も。和やかな春の訪れを感じさせる風景でした。

今回のテーマは  
勿來地区に  
咲く桜

## 第35回 植田町本町通り歩行者天国

### 開催告知

●開催日時  
5月5日(日)  
午前9:00~

●開催場所  
植田町本町通り



昨年開催された歩行者天国の様子。植田町がたくさんの人々で賑わいます

毎年恒例の歩行者天国が、今年も開催されます! 屋台の出店はもちろん、地域の小学生によるプラスバンドの演奏や、子どもたちに人気のはじご車試乗会、歌謡ショーなど、さまざまな催し物が開かれる予定です。

## 小浜・岩間地区

第2回

## 津波避難のための 地区懇談会開催

昨年12月に引き続き、2月20日、小浜・岩間地区を対象に、第2回津波避難のための地区懇談会が行われました。

小浜地区では、津波避難場所に指定されている津神社の階段が急で登りにくい、高台側へ向かう台橋の幅員が狭いなどの意見が追加で出されました。また、岩間地区でも、避難場所の楫取津神社に水道設備がないという問題のほか、前回の懇談会に引き続き、小原地区へ繋がる市道が狭く、どのような改良が望ましいかといった意見などが交わされました。

今後市では、懇談会の結果をもとに施設整備計画案を作成し、地区の方と再度懇談を行った上で、平成25年度に復興交付金の申請を予定しています。

# いわきのこれからを考える「0246プロジェクト」開催

3月16日にいわき芸術文化交流館（アリオス）で市社会福祉協議会主催の「0246プロジェクト」が開催されました。名称はいわき市の市外局番である「0246」と、東日本大震災の発生時刻である、午後2時46分という数字が奇しくも一致したことに由来します。

同プロジェクトでは、ボランティアの方たちによるパネルディスカッションが行われ、震災当時の話や、今までの活動記録を報告。パネリストとして参加した、小名浜地区復興支援ボランティアセンターの吉田恵美子さんは「被災者全員、心の中のわだかまりがなくなる日まで、ボランティアセンターを運営して行こうと思っています」と復興への強い意志を述べました。

その後、同会場では、歌手の井手綾香さんによるコンサートが行われました。井手さんは、市災害救援ボランティアセンター発足日と同じ日の、2011年3月16日にデビュー。なにかの縁を感じ、いわき市まで足を運んでくださいました。コンサートでは、NHKドラマで使用された主題歌「きっと、ずっと」など10曲を披露。「音楽を通じて、少しでも心が和らげば…」という思いを込めて熱唱し、復興へのエネルギーを送りました。

► 参加したボランティアのみなさん。和やかな雰囲気でパネルディスカッションが行われました



► 井手さんによるコンサート。震災発生時に聞いていた「アンパンマンのマーチ」も歌い、会場を盛り上げていました



► 子ども連れで参加したお母さん。公園でお弁当を食べながら「井手さんの歌声に元気をいただきました」とピースしてくれました

四倉小学校  
一年生 | 国玉直輝くん(左)  
○大庭美麗ちゃん(中)  
○後藤望亞ちゃん(右)



## 表紙の人

3人は四倉第一幼稚園の頃からの仲良しです。この春、四倉小学校に入学しました。

ワクワク、ドキドキの入学式の後、晴れ渡った青空の下、小さな背中に大きなランドセルを背負って、笑顔でハイポーズ。

小学校生活のスタートの日を迎えて、希望に胸をふくらませる子どもたち。新しいお友達が何人できるかな？お勉強も頑張ってね。

## ふれあい通信

応急仮設住宅や雇用促進住宅でのイベントを取材してご紹介

### 中央台高久第一応急仮設住宅

#### 「わくわく縁日」開催

3月20日、ガソリンスタンド「エネオス」などを展開しているJXグループによる「わくわく縁日」が開かれました。点数の書いてあるバスケットゴールにボールを投げて得点を競うナインゴールバスケットのほか、5つのアトラクションを使って、体を動かしました。賞品には、エネオスのイメージキャラクターであるエネゴリ君が描かれたブランケットやエコバックなどがあり、子どもたちは何度も挑戦し賞品をゲット。笑顔いっぱいの1日となりました。



▲ ナインゴールバスケットに挑戦する子どもたち。みんな上手にボールを投げていました

► 巨大なだるま落とし。子どもたちは全身でハンマーを振っていました



▲ 同住宅集会所に現れたウルトラマンに、子どもたちは大興奮。「おとうさんはウルトラマン」の絵本を見るなど、楽しい時間を過ごしました

### 内郷雇用促進住宅

#### ウルトラマンがやってきた！

3月26日、ウルトラマンがやってきました。これは円谷プロダクションの被災地支援事業であるウルトラマン基金「ヒーローキャラバン～子供たちの心に光を～78 places in 東北」の一環。

同住宅に住む子どもたちや保護者など約80名が参加して、ウルトラマンと一緒に体操をしたり、握手や記念撮影をしたりして楽しみました。

### 編集室より

「ふるさとだより」を担当して2年目を迎えます。今年も読みやすい誌面、わかりやすい情報を心がけ、ふるさとのいまを伝えていきます。1年間よろしくお願ひ致します。

久之浜  
大久 地区

今年度も担当します。多くの方とお会いし、1秒でも長くみなさんと同じ空気を吸っていたいと思います。（鈴木伴栄）

四 倉 地区

今年も四倉地区を担当します。笑顔と活気あふれる町になるように、誌面を通して応援します。（吉田靖）

平 地区

これから1年間、平地区を担当します。地区的皆さまの話題を笑顔と共に伝えていきたいです。（志賀新）

小名浜 地区

あたたかく活気ある小名浜を今年もみなさんにお届けできるよう、精一杯がんばります。（愛川綾子）

勿 来 地区

前年度に引き続き、元気いっぱいの勿来をお伝えしています。1年間、よろしくお願ひします。（中山明徳）

ふるさとだよりに情報やご感想をお寄せください！

●メールの方／furusato@asally.co.jp

携帯電話からのメールはQRコードを読み取ってください。→

●FAXの方／0246-26-5157

●おたよりの方／左記編集室まで



いわきあいあいで情報発信中!  
いわきあいあい 検索

Click